

令和3年度 事業計画

公益財団法人 日本股関節研究振興財団

I 基本方針 — いつまでも元気で歩くために —

公益財団法人 日本股関節研究振興財団は、昭和62年の創立以来、股関節に関する研究、診断治療技術の開発及び運動器の健康寿命を延伸するための研究を奨励して参りました。

しかしながら令和2年は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、産業・経済・医療をはじめとする国民生活に大きな影を落としています。

このような状況下で、国民は政府の方針に従い、マスクの着用、手洗いの励行、3密の回避をはじめ、飲食の自粛や移動の制限等を余儀なくされ、家の中にこもる時間が多くなったことから、運動不足や心身の不活発状態が指摘されています。

また、一方で股関節に目を向けますと、人間は沢山の関節を持ち、これを意識的にあるいは、無意識に駆使しながら生活しています。この沢山の関節の中で最も大きく、また、複雑な運動をしているのが股関節です。そのため、股関節疾患には、発育性股関節脱臼、変形性股関節症、ペルテス病、大腿骨近位部骨折、股関節の脱臼骨折など、いずれも簡単に治療できないような疾病がその名を連ねている状況に変わりはありません。

一方、日本は世界一の長寿国となりました。しかし必ずしも全ての人が元気なまま、長寿を全うするわけではありません。統計では、平均寿命から心身ともに自立した生活を送ることが出来るいわゆる健康寿命を差し引いた期間は9~13年にもおよび、この期間は、病気で入院したり、寝たきりや介護を受けていることとなります。このような介護状態を減らし、いつまでも元気で歩くために、特に人間の歩行に重大な機能を担っている股関節をケア

することが重要となっております。

このことは、国の「新健康フロンティア戦略」及び「健康日本 21」の事業が推進されており、また公益社団法人日本整形外科学会の提唱する「ロコモティブシンドローム」という新たな運動器の機能低下が懸念され、その予防の取組みが行われています。

また、昨今では日本老年医学会が「フレイル」という概念を提唱し、健常から要介護へ移行する中間の段階と言われ、健常なうちから「フレイル」を予防することの取組みも求められています。

これから人生 100 年時代を迎える中で当財団が果たす役割は、さらに増しているものと考えております。

今後とも、当財団は、設立の原点である股関節障害の不安を取り除くための「股関節の学術研究の奨励と股関節に関する普及啓発」に加え、「ストップ・ザ・ロコモティブシンドローム」、「フレイルの予防」及び「健康寿命延伸」のための活動を積極的に展開し、社会貢献を果たして参ります。

II 個別事業

1. 助成事業（公1）

（1）助成金支給事業

① 研究助成事業

股関節疾患及び股関節に関する他の疾患の学術研究、診断と治療技術の開発及び健康寿命を延伸するための研究に関する優秀な研究に

対して、公募により助成を行います。

- ア 助成金額 1件 70万円以内
- イ 助成件数 3件以内
- ウ 選考方法 理事会で選出された学術経験者による助成選考委員会にて内定します。

② 研修助成事業

ア 海外研修助成事業

令和3年度は、海外研修助成の公募を中止とし、延期となっている令和2年度の海外研修を実施します。

イ 国内研修助成事業

股関節医療の発展に貢献できる人材を育成するため、国内の研究機関における研修は、延期となっている令和2年度の国内研修を併せて実施することとし、トップレベルの研究者から専門知識を習得するための研修に対して、公募により助成を行います。

- (ア) 助成金額 1件 15万円以内
- (イ) 助成件数 4件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による国内研修助成選考委員会にて内定します。

(2) 研究・研修成果報告書作成事業

研究及び研修助成金の成果報告書を作成し、厚生労働省、各大学医学部及び関係機関に配布します。

研究成果報告として、本年は、令和元年度に当財団が交付した研

究助成金により、令和元年から令和2年に実施された2件の研究成果を取りまとめます。

また、令和2年度に当財団が交付した研修助成金により実施する海外研修成果報告及び国内研修成果報告として2件の研修成果を取りまとめます。

① 研究成果報告書

ア 「人工股関節全置換術における、高機能TiNbSn合金の臨床的有用性の検討」

東北大学病院 千葉大介

イ 「変形性股関節症に対するPRP関節内注射療法の疼痛改善効果に関する臨床研究」

高知大学 岡上裕介

② 海外研修成果報告書

(研修者)

名古屋市立大学リハビリテーション医学分野 黒柳 元

千葉大学大学院整形外科 中村 順一

金沢大学附属病院整形外科 吉谷 純哉

③ 国内研修成果報告書

(研修先)

ア 江戸川病院

東京慈恵会医科大学

船橋整形外科病院

- イ 産業医科大学
産業医科大学若松病院
佐賀大学

(研修者)

- ア 済生会小樽病院 整形外科 清水 淳也
岡山大学大学院 整形外科 山田 和希
- イ 神戸大学大学院 整形外科 高島 良典
京都府立医科大学 整形外科 林 成樹

(3) 股関節研究セミナー開催事業

医療関係者等に対して股関節疾患に関する治療方法等の研究成果並びに海外及び国内研修成果報告のセミナーを新型コロナの感染状況を見極めた上で10月に開催予定です。

① 研究助成事業

本年は、平成29年度及び平成30年度の研究助成金による研究について、下記の6件の研究成果を発表する予定です。

ア 平成29年度

- (7) 「Micro-engineering を併用した血管付人工骨による股関節巨大骨欠損の再建」

京都大学 河井 利之

- (4) 「先天性股関節脱臼の病態解析による関節メカニカルストレス応答機構の分子生物学的解析」

(ウ)「人工股関節置換手術後のゴルフが下肢筋力及びQOLの
評価に及ぼす影響」

清心会藤沢病院 石井 紀夫

中京大学国際教養学部 渡邊 航平

イ 平成 30 年度

(ア)「第一・第二世代 XLPE 製寛骨臼ライナーの厚みが機械的耐
久性に及ぼす影響の解明」

東京医科大学 立岩 俊之

(イ)「先天性股関節脱臼の病態解析による関節メカニカルスト
ス応答機構の分子生物学的解析」

神戸市立医療センター中央市民病院 安田 義

(ウ)「スクレロチン分泌低下に伴う大腿骨近位部骨折予防戦
略」

信州大学 中村 幸男

② 海外研修助成事業

本年は、令和 2 年度から令和 3 年度へ延期して実施した研修に
ついて、結果報告を発表する予定です。

③ 国内研修助成事業

本年は、令和 2 年度から令和 3 年度へ延期して実施した研修に
ついて、結果報告を発表する予定です。

2. 普及啓発事業（公2）

（1）股関節市民フォーラム開催事業

一般市民の方々を対象に、股関節の病態、予防等についての正しい知識をわかりやすく、楽しい講演を中心に新型コロナの感染防止対策を講じた上で股関節市民フォーラムを東京にて開催の予定です。

（2）普及啓発事業

本年度も、「人工関節ステッカー」を作成・配布して、広く一般国民の方々向けに股関節に関する情報提供を行い、普及啓発を図ります。

また、本年度も、引き続き「新・股関節がよくわかる本」の内容についてWEBを活用し、股関節の正しい知識についての周知を展開します。

（3）インターネット情報提供事業

本年度も引き続き、ウェブサイトの内容を充実し、より見やすく、タイムリーに新しい情報を公開します。

3. 運動器健康寿命延伸事業（公3）

（1）運動器健康寿命延伸体操の研究開発及び普及促進事業

健康寿命延伸のための股関節を中心とする「運動器健康寿命延伸体操（ロコモ体操）」の研究開発をすすめ、外部機関が開催する

講演会等へ出演し、「ロコモ体操」の普及を促進します。

(2) 体操指導者研修事業

運動器の健康寿命延伸のため、広く一般国民に運動器、特に股関節の重要性を周知する、正しい知識を持った専門家の養成研修を新型コロナウイルスの感染状況を見極め、感染防止対策を講じて実施する予定です。

4. 管理事業

(1) 理事会

日 程	開催場所
令和3年5月	千代田区（予定）
令和4年2月	京都市（予定）

(2) 評議員会

日 程	開催場所
令和3年6月	東京都（予定）

(3) 監事監査

日 程	開催場所
令和3年4月	東京都（財団会議室）

5. 股関節らくらく募金

平成25年秋より実施し、現在参加者数84名（令和3年2月現在）です。

本年度は、参加者数の目標を100名とし、きめ細かいフォローにより財源の安定化を図ります。